

「キャンセル待ちだった初めてのベトナムツアー（その1）」

No.38 鴛海拓也

いつも利用しているツアー会社のパンフレットに「ベトナム3都市めぐり（5日間）」全食事付きでお一人様10万円とある。気が付いてすぐに申し込むが、すでに「キャンセル」待ちの状態。申し込みだけを済ませて吉報を待つ事にする。

ツアー会社より電話があり「キャンセル」が出たとの事。学校の「期末試験」中だったので家内と参加する。ベトナムの国内移動の「航空運賃」も含まれているので安い！

私達、昭和の世代にはベトナムのイメージには暗いものがある。ベトナム戦争、枯葉剤、奇形児（ベトちゃん、ドクちゃん）など。ベトナムとは、中国の「南（ナム）」に住む「（ベト）族」から国名が付いてあり、すべてのお札には「ホー・チ・ミン」の肖像画が印刷されている。ベトナムは、中国からの独立の後はフランスの植民地となり、その後はアメリカの支配下の「南ベトナム」とホー・チ・ミン率いる「北ベトナム」が戦って勝利を収め晴れて独立国家となる。去年は、日本との国交50周年との事であった。「平均年齢」は日本より15歳若く、33歳との事だった。

私の大好きな映画シリーズで、中学生の時に見た「007黄金銃を持つ男」の中でボンドの敵役（※）の殺し屋の隠れ家が、このベトナムにある「ハロン湾」で撮影されていたので是非、この地を訪れて見たかった。

（※）敵役は、クリトファー・リーでこの役者はそれまで「ドラキュラ」の役で活躍していたので意外性があり当時、話題になった。

11月16日（木曜日）福岡～ハノイ～ハロン湾

「福岡空港」からベトナムの「ハノイ」まで約5時間。「国際線」にしては座席が狭く、私の体型でも前席と、膝の間はほとんど無い。ビールを頂いて1度の食事が出るが、座席にはモニターもなく映画を観ることも出来なかった。

到着後は途中、トイレ休憩をはさみながらバスにて「ハロン湾」に移動。世界遺産であるハロン湾までは3時間。現地は「建設ラッシュ」で、いくつもの新しいホテルが乱立しているが（※1）中の設備はなく、このまま現状で売却する「不動産投資」だと言う。現地ガイドさんが夜はうるさいと思ったら、連絡してもらえれば部屋の交換してもらおうとの事だった。一軒のディスコ風の店が、夜空に向かって色とりどりのレーザーを放ち、大音量で音楽を流している。私達の部屋には重低音のドラムのような音が聞こえていたが、夕食時に1本7万ドン（350円）のビールを適度に飲んでいたので、そこまで気にならなかった。それより曇りの天気だったので、翌日の「ハロン湾」クルーズの方が気になっていた。最悪の場合、「船上クルーズ」は中止となる。

翌朝、室内の風呂の水道がきちんと閉まらず「フロント」に伝えるがそれほど驚くこともなく対応していたので、この位のトラブルは日頃からあるのだろうかと思う。



(※1)「ハロン湾」ホテルの部屋からの風景。どんよりした天気であった。

11月18日(金曜日) ハロン湾～ハノイ

朝は6時半に「モーニングコール」がなるとの事で待っていたが、鳴らないので朝食会場へ。聞くと現地ガイドが一部屋ずつ、手動で電話を掛けていたとの事だった。

朝8時にホテルを出発。「クルーズ船」乗り場は多くの観光客でごった返してしていた。それにしても西洋人が多い。クルーズの時間は3時間で途中、「ティエンクン鍾乳洞」の観光と船上での「海鮮料理」の昼食も含まれている。どちらも十分に楽しむ事が出来た。食事で相席だった福岡市在住のご夫妻と仲良くなり、「伊万里ハーフマラソン」の帰りには朝倉市の新築のお宅におじゃまするほどの間柄になった。

午後からはふたたびハノイに戻り「市内観光」。中でも6人乗りの「電動カート」に乗っての市街地観光は、アミューズメント施設にある乗り物以上にスリルがあった。

ベトナムでは100cc以下のバイクには「免許証」も必要なく「車検」もないと言う。バイクの数は人口の半分だという。また小学生以下は同乗可能なので、家族で4人乗りだったり、また二人乗りする夫婦の間から乳児の足が見えたり。こんな状態で「信号機」のシグナルもあって無いようなもの。国民の足となる多くのバイクが縦横無尽に走っている。「歩道」にも入って来る。

この様な状態の中を「カート」は走る。不思議と事故は起こらないが、何度手を引っ込めたものか。事故が起こってもどちらが優先などの論争までは行かず、双方の話し合いでお金を払って終わりだと言う。「緊急車両」はこの国では意味を成さない様な気がした。



(ハロン湾) 多くのクルーズ船が、奇岩の風景に吸い込まれていく。



(ハノイ市内) 「歩道」はレストランの一部となり、バイクで乗り付けて夕食を楽しむ現地の人々